

テクニカル分析 基礎講座

第4回 フォーメーション分析

2012年11月06日

インヴァスト証券株式会社

当資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としておりますが、投資の際の最終決定はご自身の責任と判断でなされるようお願いいたします。

当資料は当社が信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

テクニカル分析 基礎講座

基礎から学ぼう！テクニカル分析講座 第一部

- 第1回 ローソク足分析
- 第2回 トレンドライン分析
- 第3回 フォーメーション分析
- 第4回 サイクル分析

基礎から学ぼう！テクニカル分析講座 第二部

- 第1回 ダウ理論
- 第2回 エリオット波動論
- 第3回 ギャン理論
- 第4回 一目均衡表
- 第5回 実践編

基礎から学ぼう！テクニカル分析講座 第三部

- 第1回 移動平均線
- 第2回 エンベロープやボリンジャーバンド
- 第3回 トレンドとボラティリティ
- 第4回 RSIとストキャスティクス
- 第5回 不規則時系列分析
- 第6回 実践編

2011年にWEBセミナーで
おこなった内容

<http://www.invast.jp/seminar/archive/#beginner>

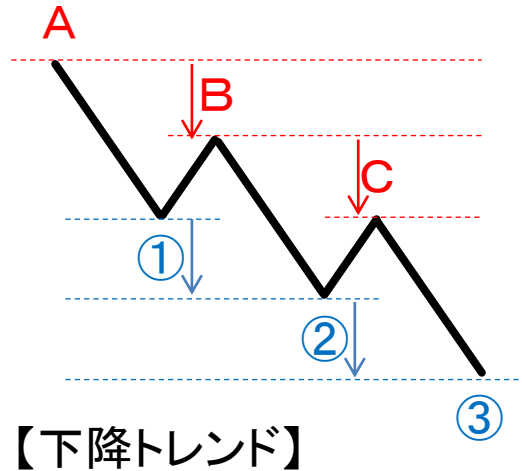
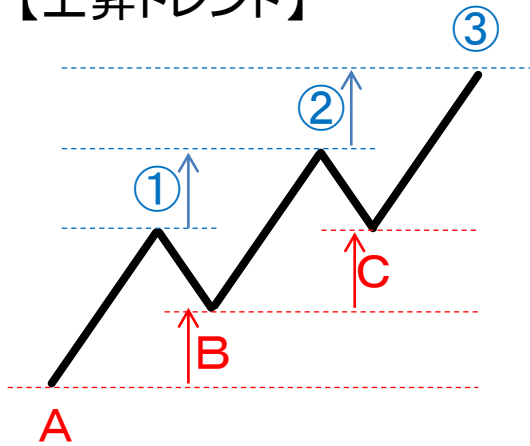
<http://www.youtube.com/user/INVASTSecurities>

第4回目 フォーメーション分析

1. トrendとトレンドライン
2. フォーメーション分析
3. リバーサル・フォーメーション
4. トライアングル
5. ペナント・フラッグ・ウェッジ
6. 実際のチャートを見てみよう！
7. 復習と予習
8. まとめ

トレンド

【上昇トレンド】



【トレンドレス】



【上昇トレンド】

安値と高値が共に右肩上がりに切り上がって価格が上昇している状況

【下降トレンド】

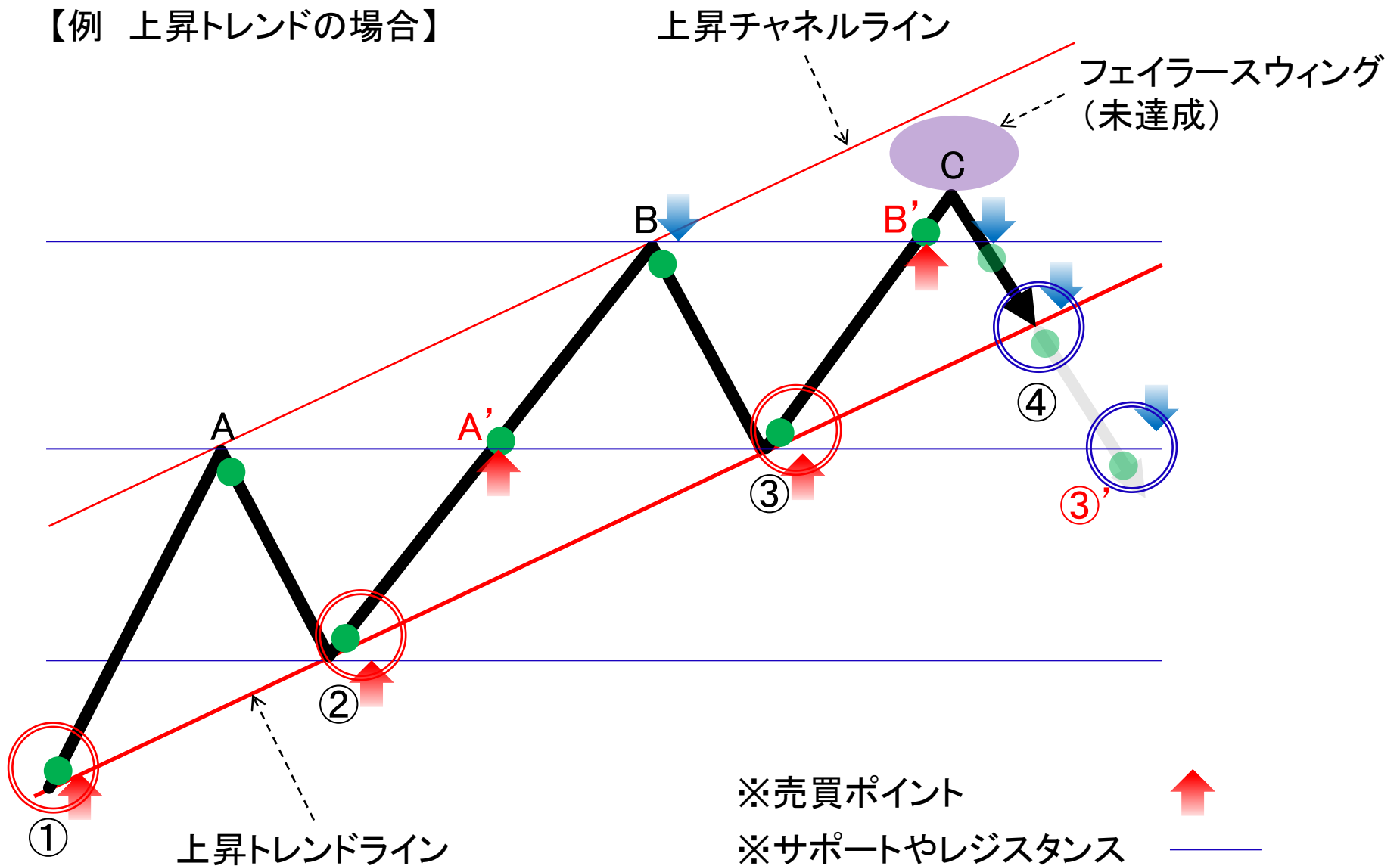
高値と安値が共に右肩下がりに切り下がって価格が下降している状況

【トレンドレス】(横這いトレンド)

上昇トレンドでも下降トレンドでもないレンジ相場となっている状況

トレンドライン

【例 上昇トレンドの場合】

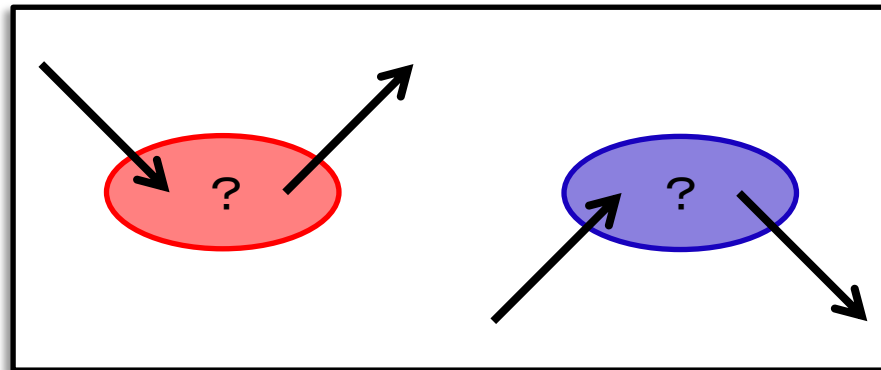


フォーメーション分析

フォーメーション分析とは、『値動きの形』(＝チャートの形)から今後の値段の動きを分析する方法です。

○リバーサル・フォーメーション

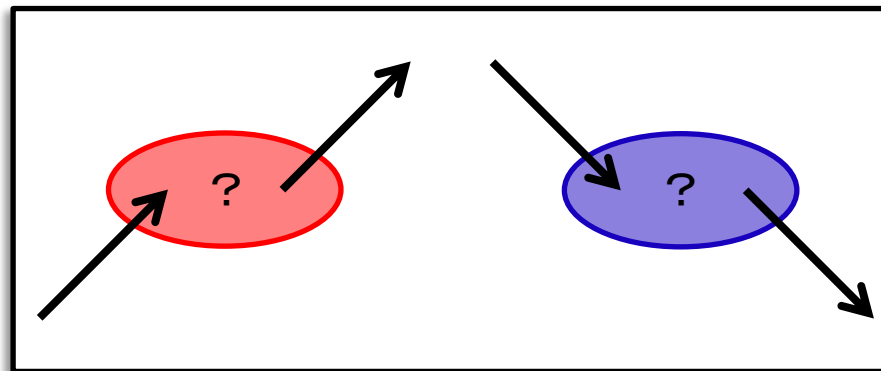
⇒ トレンドが反転する傾向が見られるチャートの形
(相場の)反転パターン



反転パターン

○コンティニュエーション・フォーメーション

⇒ 直前のトレンドを継続する傾向が見られるチャートの形
(相場の)継続パターン



継続パターン

リバーサル・フォーメーション

①ヘッドアンドショルダーズボトム



②ダブルボトム



③ソーサーボトム



④ラインボトム



⑤スパイクボトム



①ヘッドアンドショルダーズトップ



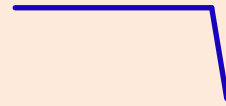
②ダブルトップ



③ソーサートップ



④ライントップ



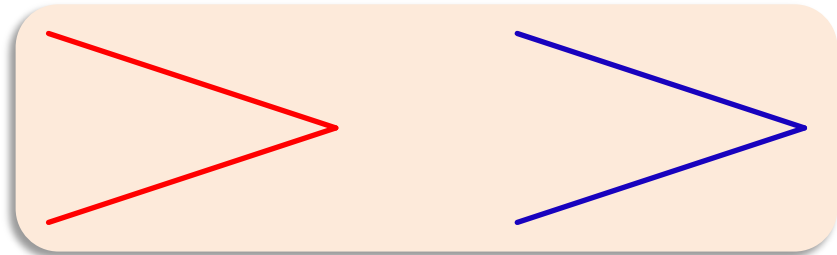
⑤スパイクトップ



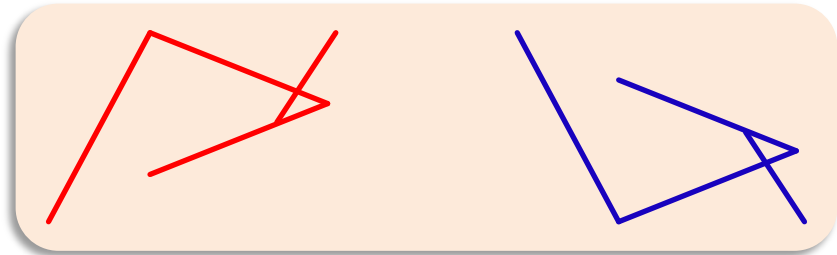
コンティニュエーション・フォーメーション

①トライアングル(三角保ち合い)

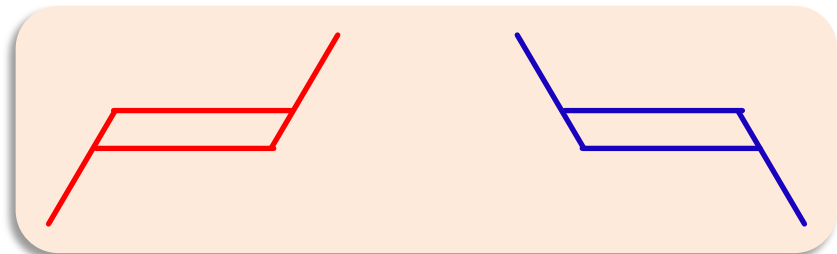
- ・ブロードニングフォーメーション
- ・ダイヤモンドフォーメーション



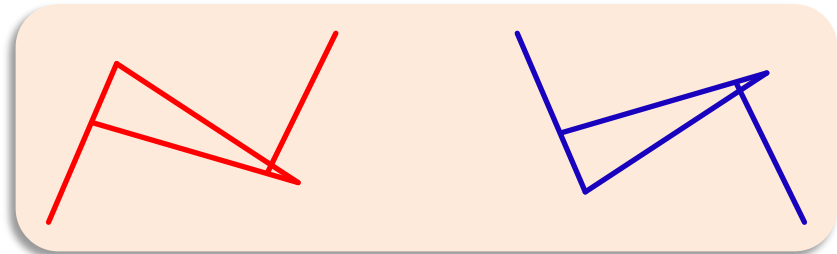
②ペナント



③フラッグ

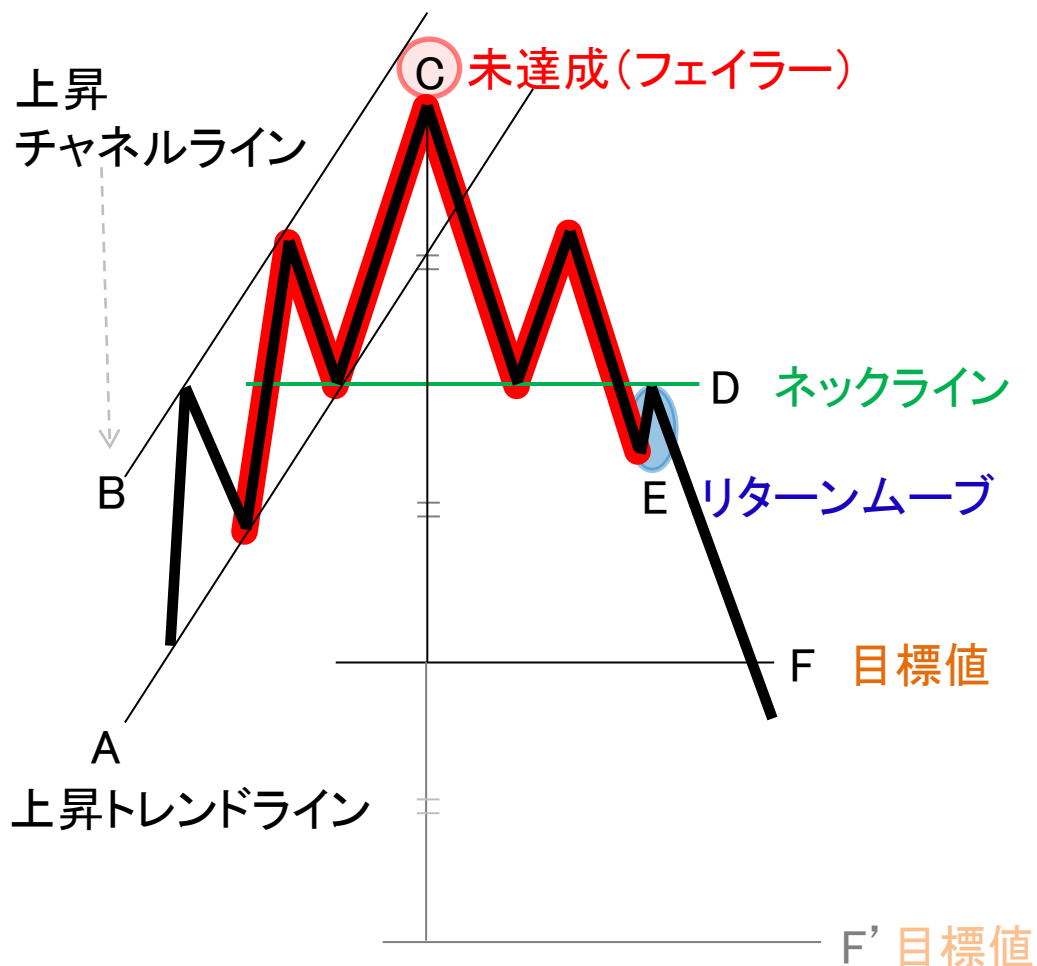


④ウェッジ



ヘッド・アンド・ショルダーズ

【ヘッド・アンド・ショルダーズ・トップ】



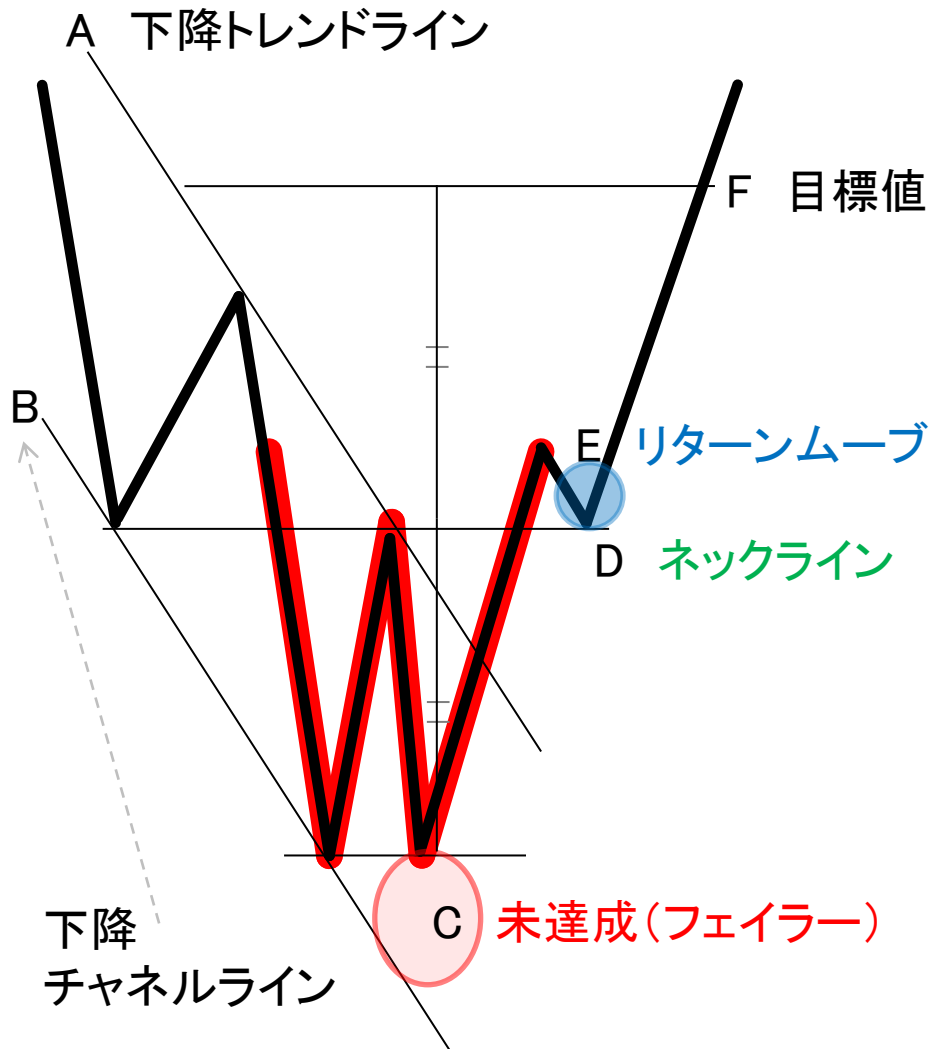
三尊天井・逆三尊とも言われ、非常に信頼性の高い相場の反転パターンです。
中央の山が一番高く、中央の山を挟む谷と谷を結んだ線を**ネックライン**(D)と言います。

一度、このネックラインを割った後にネックラインまで戻ること**リターンムーブ**(E)といい、リターンムーブの発生でヘッドアンドショルダーズが完成します。

価格の**目標値**(F)はネックラインから中央の山とネックラインの差の整数倍となります。

ダブル・フォーメーション

【ダブル・ボトム】



日本では二重天井、二重底とも言われ、ヘッドアンドショルダーよりも、多く見られる相場反転パターンです。

2つの山の頂上は同じぐらいの値段帯となっていることが多く、2つの山の間の谷を基準に水平に引いたラインを**ネックライン**(D)と言います。

価格の目標値(F)はネックラインから山とネックラインとの差の整数倍です。

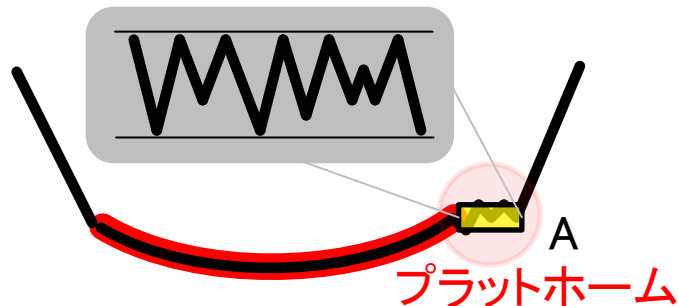


毛抜き底(天井)



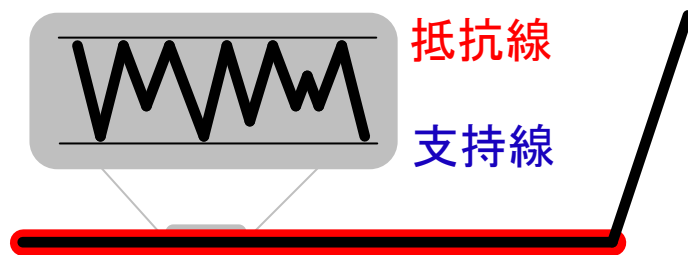
その他のリバーサル・フォーメーション

ソーサートップ・ソーサーボトム



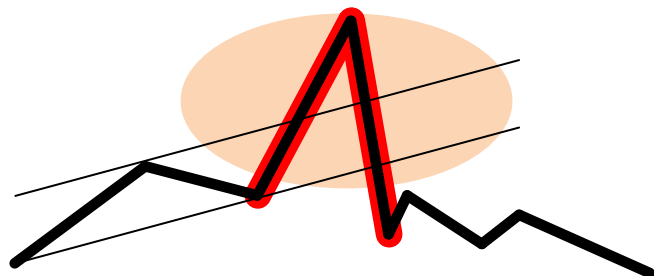
形状がコーヒーカップのソーサーのような形で、ラウンド、ボウル、円形転換、鍋底などとも言われます。ソーサーボトムの特徴は、湾曲した値動きの後、新しいトレンドの発生直前で**プラットホーム**(ハンドル)と呼ばれる揉み合い相場を形成する点です。

ライントップ・ラインボトム



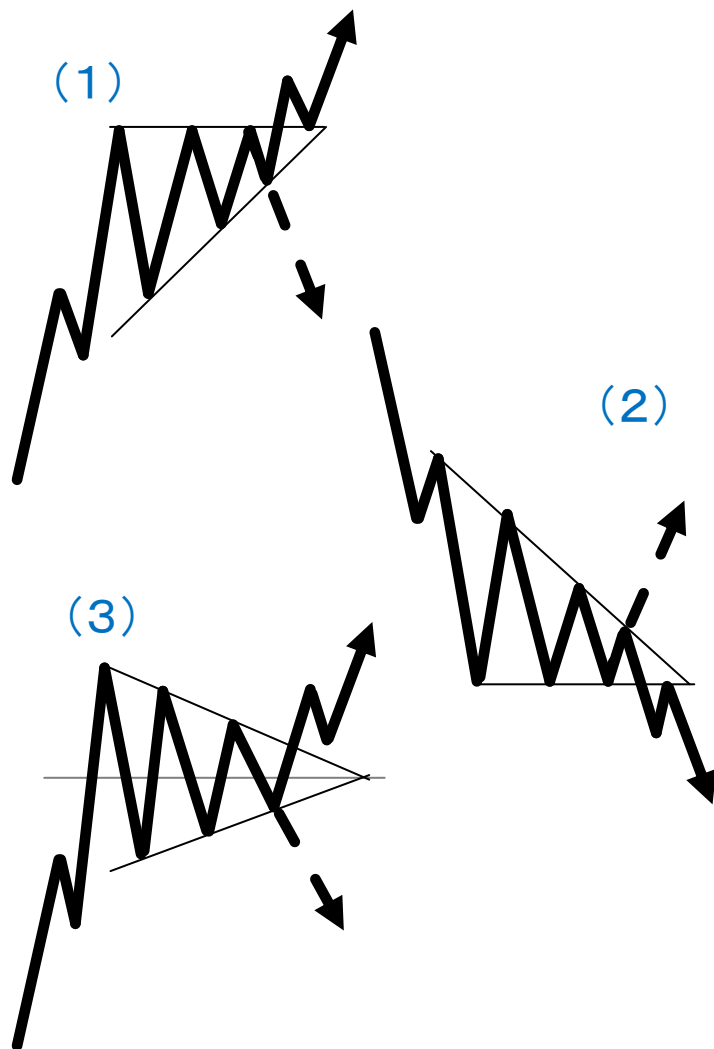
特に、下値圏に張りついたような線形で、そこから大きく上昇するような値動きを言います。ラインフォーメーションは、上値**抵抗線**(下値**支持線**)に幾度もトライをつづけ、抵抗線(又は支持線)を抜ける動きとなります。

スパイクトップ・スパイクボトム



V字型とも言われ、事前の特徴はありません。したがって、過去に同様の値動きが無かったかどうかを確認したり、エリオット波動論の波動をカウントしたり、オシレータ系のテクニカル指標でダイバージェンスの発生を確認したりする等で把握します。

トライアングル



トライアングルは三角保ち合いとも呼ばれる比較的中長期的なチャートで形成されるチャートパターンです。トライアングル形成後は、その直前に形成していたトレンドを形成するケースが多く見られますが、反転するケースもあるため、売買の判断は価格がトライアングルの上辺、又は、下辺をブレイクしたときとなります。

(1) 上昇三角形(アセンディングトライアングル)

上辺が水平な三角形が形成されます。上昇トレンド時に形成されることが多く、三角形の上辺を上抜けて再度上昇トレンドが形成されます。

(2) 下降三角形(ディセンディングトライアングル)

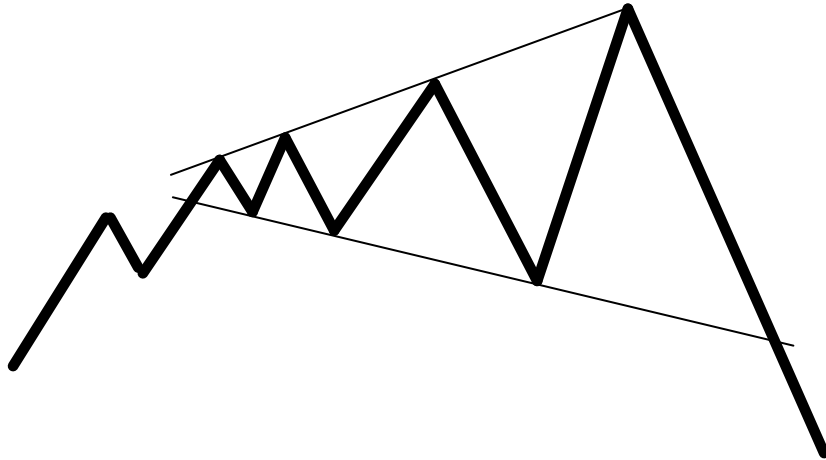
下辺が水平な三角形が形成されます。下降トレンド時に形成されることが多く、三角形の下辺を下抜けて再度下降トレンドが形成されます。

(3) 対称三角形(シンメトリカルトライアングル)

上辺が右肩下がり下辺が右肩上がりの三角形が形成されます。三角形の形成前のトレンドを継続すると予想されるが、(1)(2)よりも慎重に判断する必要があります。

トライアングルの派生形

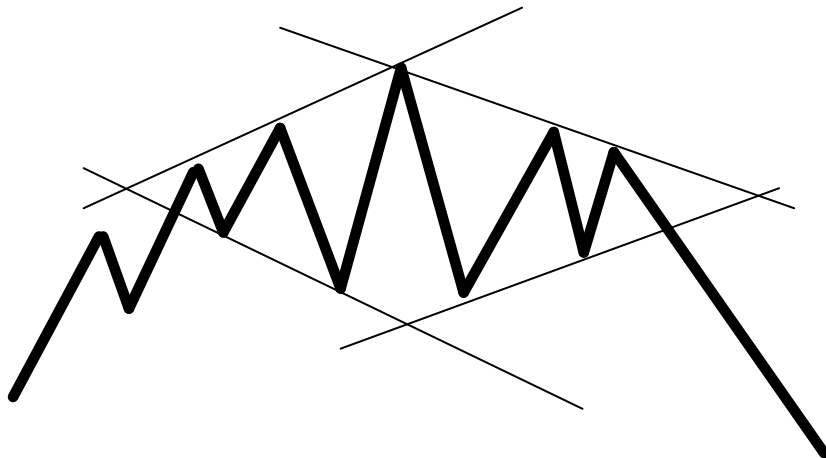
ブロードニング・フォーメーション



トライアングルの派生フォーメーションと分類されます。

しかし、これはブロードニングフォーメーションの形状が逆三角形となりトライアングルとは逆となるためブロードニングフォーメーションが形成された場合は、トレンド反転となるケースが多いです。

ダイヤモンド・フォーメーション

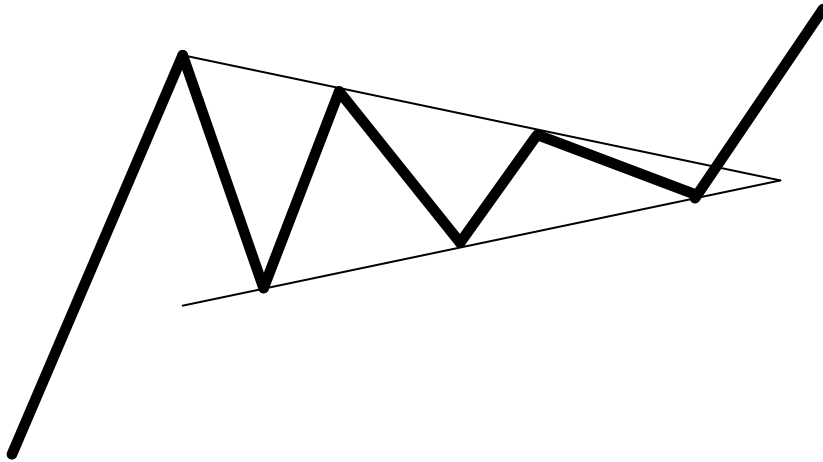


トライアングルの派生フォーメーションと分類されます。

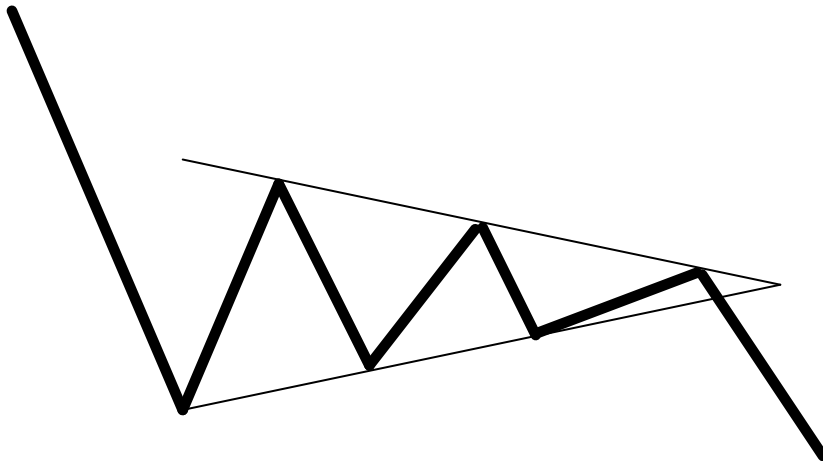
これはダイヤモンドフォーメーションの形状が菱形（逆三角形とシンメトリカルトライアングルを合成した形状）となるため、ダイヤモンド・フォーメーションが形成された場合は、トレンド反転となるケースが多いです。

ペナント

上昇ペナント



下降ペナント



コンティニュエーションフォーメーションのひとつです。

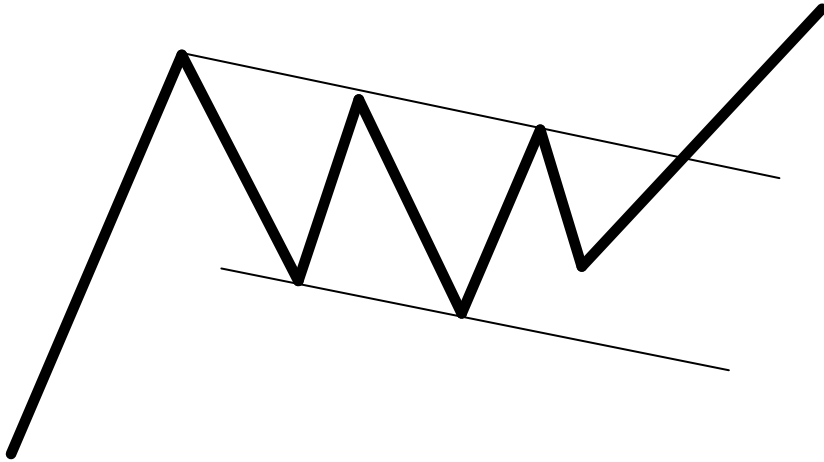
トライアングルと同様、三角形を形成する値動きとなりますが、トライアングルとの違いはトライアングルが比較的中長期的な相場の値動きの形であることに対し、ペナントは短期的な相場の値動きの形となり、また、最初の三角形の辺まで旗の竿（ポール）のように一直線に価格が推移しているケースが多いということです。

ペナントもトライアングル同様、三角形の形成後の値動きは、三角形を形成する前のトレンドの継続となります。

上昇トレンド時に形成されるペナントを上昇ペナント、下降トレンド時に形成されるペナントを下降ペナントといいます。

フラッグ

上昇フラッグ

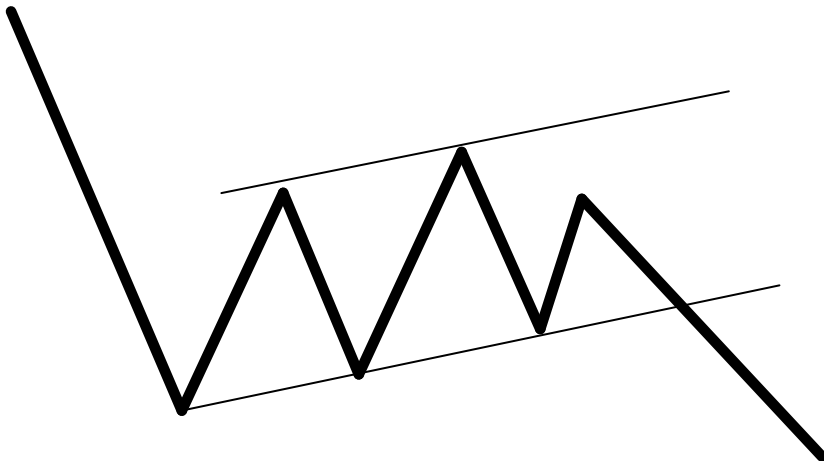


コンティニュエーションフォーメーションのひとつです。

フラッグは平行な2本の線の内側で価格がもみ合い、最終的にはフラッグ形成前のトレンドと同じ方向へ価格が推移します。

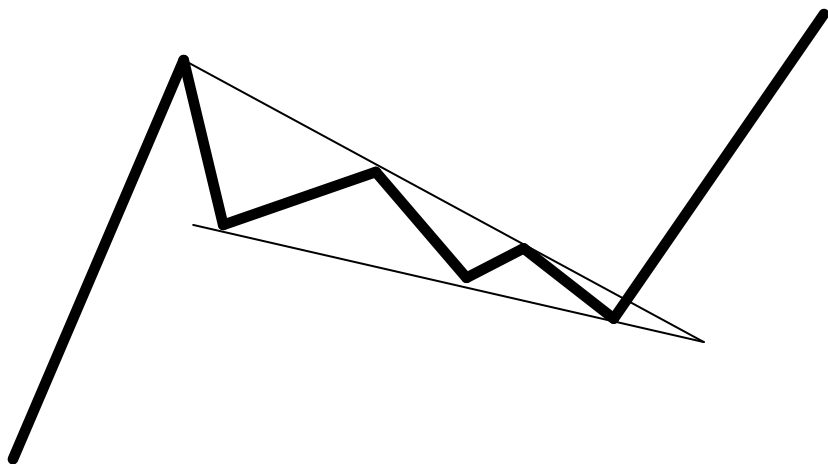
上昇トレンド時に形成されるフラッグを上昇フラッグ、下降トレンド時に形成されるフラッグを下降フラッグといいます。

下降フラッグ

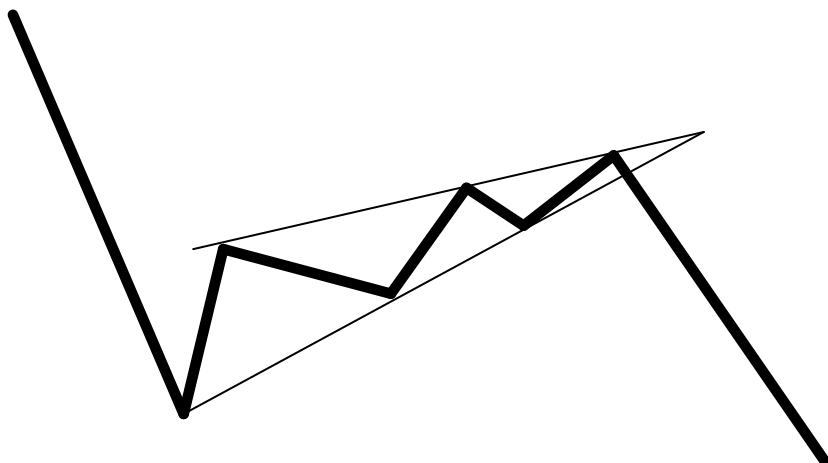


ウェッジ

上昇ウェッジ



下降ウェッジ



コンティニューエーション・フォーメーションのひとつです。

ウェッジは「クサビの形」に推移するチャートの形となります。

価格をはさむ2本のラインを確認できるまでの期間はペナントやフラッグと比べると長いと言われています。

また、ウェッジは大きなトレンドの中盤よりも、トレンド反転の直前、又はトレンド反転の直後に現れることが多いチャートの形です。

ペナントやフラッグとは異なり「クサビの形」が下向きのものを下降ウェッジ、「クサビの形」が上向きのものを上昇ウェッジといいます。

実際のチャートで確認してみよう①



実際のチャートで確認してみよう②



実際のチャートで確認してみよう③

豪ドル/円 日足チャート
くりっく365 リッチクライアント版



実際のチャートで確認してみよう④

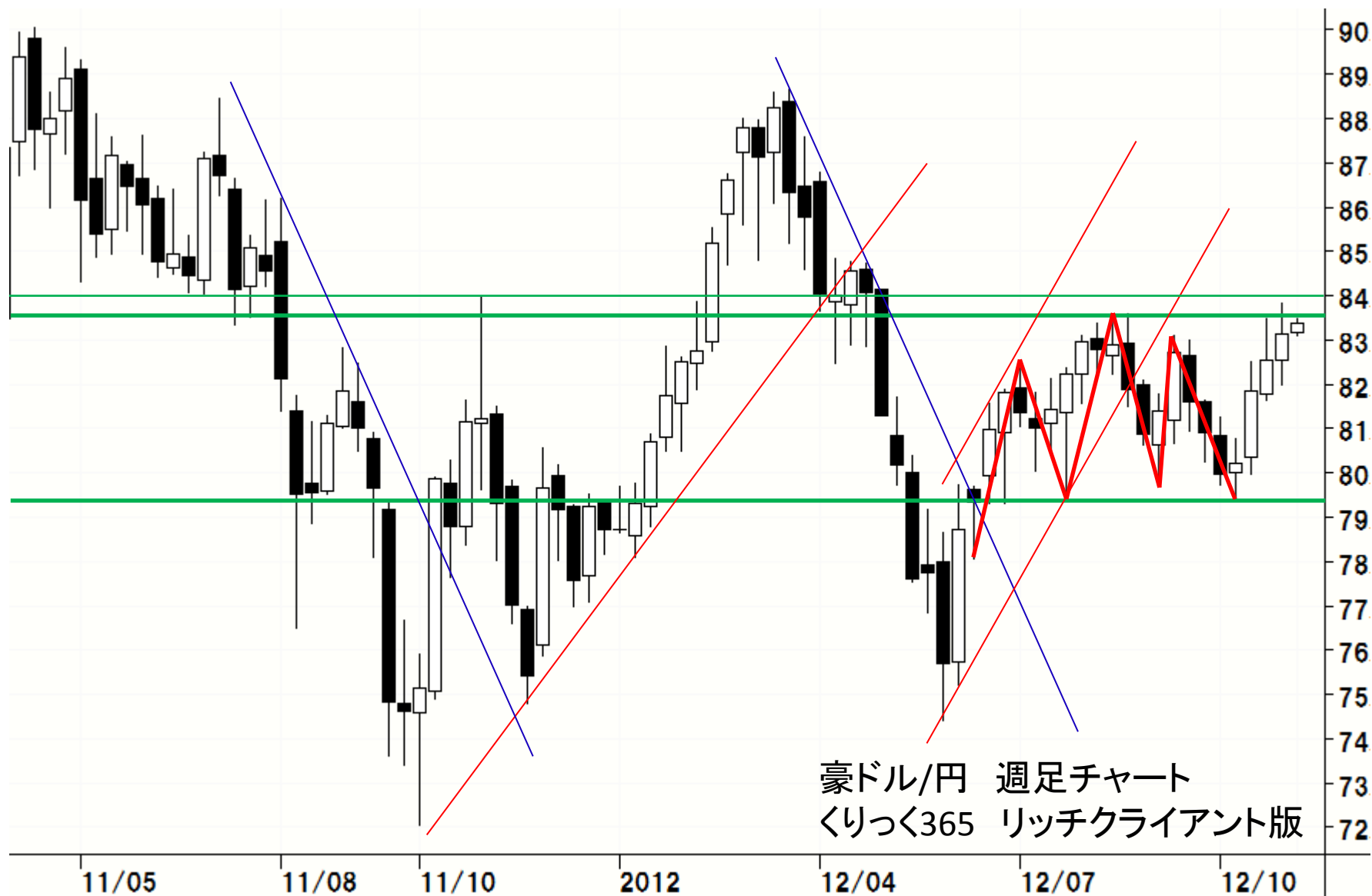


実際のチャートで確認してみよう⑤



米ドル/円 月足チャート
くりっく365 リッチクライアント版

実際のチャートで確認してみよう⑥



実際のチャートで確認してみよう⑦



復習と予習①

復習

- ① 基本は『トレンドライン』
- ② 『トレンドライン』『サポートライン』『レジスタンスライン』のブレイク

予習

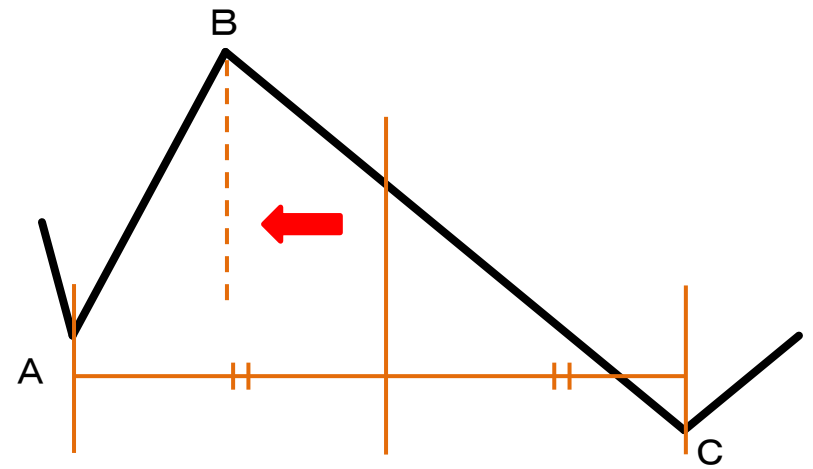
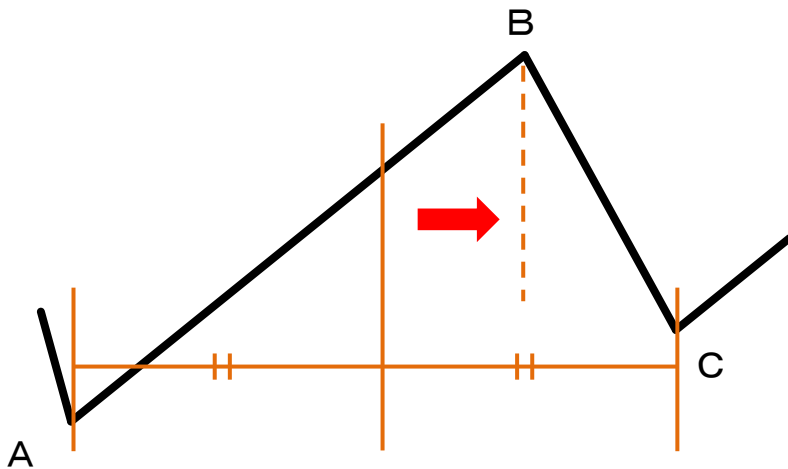
- ③ サイクルの合成性
- ④ サイクルトランスレーションの発見
- ⑤ 目標価格の計算値 $\Rightarrow$ 一目均衡表の値幅観測論
- ⑥ エリオット波動論(ジグザグ・フラット・トライアングル)

復習と予習②

③ サイクルの合成性



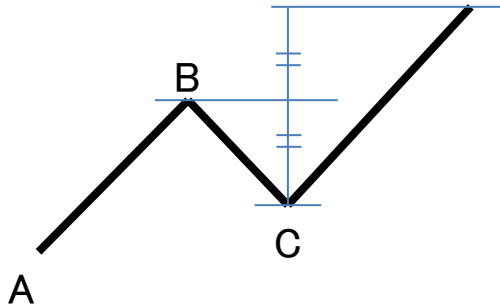
④ サイクルトランスレーションの発見



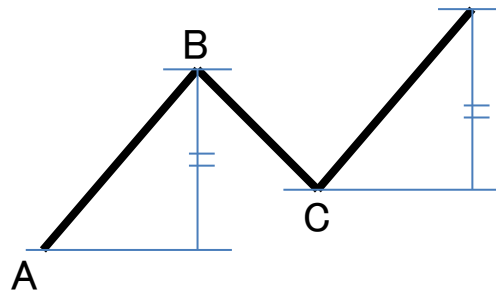
復習と予習③

⑤ 目標価格の計算値 ⇒ 一目均衡表の値幅観測論

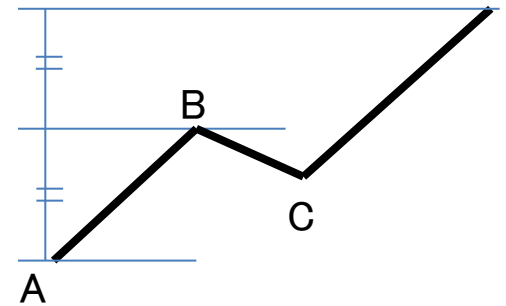
$$V\text{計算値} = B + (B - C)$$



$$N\text{計算値} = C + (B - A)$$

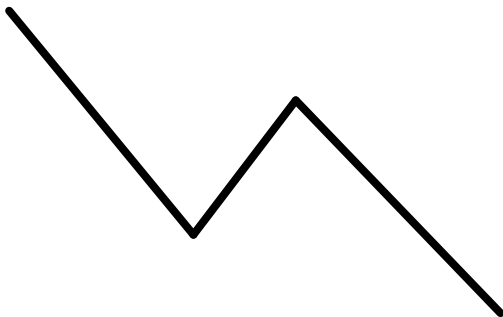


$$E\text{計算値} = B + (B - A)$$

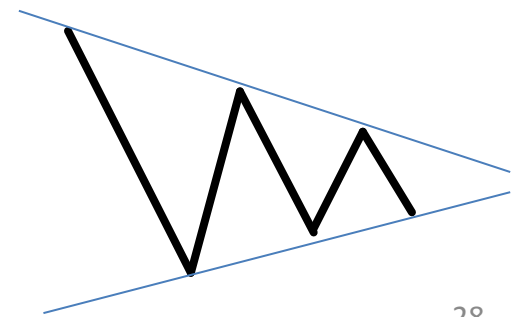
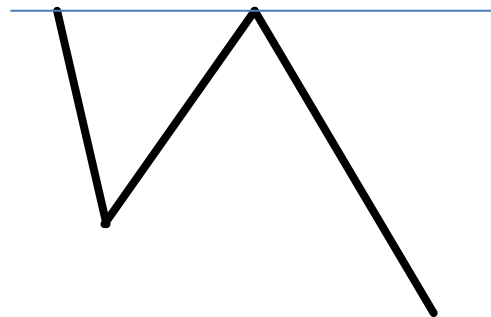


⑥ エリオット波動論 ⇒ 2波、4波での『交代の法則』

単純＝ジグザグ



複雑＝フラット、トライアングル



まとめ

フォーメーション分析は、トレンドライン分析の応用。

まずは、チャートにラインを引くところから始めよう！

チャートの形状から相場分析のヒントとして利用し、トレンドライン分析のラインブレイクを売買サインとして考え、他のテクニカルなども利用して複合的な分析をおこなう。

フォーメーション分析で得られる結果を参考に、他の分析方法も利用して分析の精度を高めよう！

メモ

おまけ (FaceBookページ)



<https://www.facebook.com/GlobalFXCommunity>



<http://www.facebook.com/st24commu>

【お取引のリスクについて】

外国為替証拠金取引、CFDおよび取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証された取引ではありません。また、急激な相場の変動等によっては投資金額を上回る損失が発生するおそれがあります。

お取引にあたっては、契約締結前交付書面および当社約款規定等の内容を熟読され、本取引の仕組み、内容およびリスクを十分にご理解いただいたうえで、お客様ご自身の責任と判断でお取引していただきますようお願いいたします。

【商号/登録番号】

インヴァスト証券株式会社 〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-21

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第26号

【加入協会】

日本証券業協会 (社)金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会